

## 抄録記入用紙

各項目すべて記入してください。グレーの網掛け部分に入力してください（網掛け部分は制限文字数まで広がります）

\*Word2003 で作成・保存してください

<b>演題名</b> * 全角 60 字以内 * 11 ポイント	大腿骨近位部骨折の歩行予後と、 在宅リハへの家族の協力について
<b>発表者名</b> * 筆頭演者氏名の先頭に ○をつけてください * 8 ポイント	○三村健, 伊藤徳明, 奥田哲也, 加藤拓, 小林奈都子, 丸谷温, 渡部恭子, 山浦祥宏, 桑原至, 細野豊和, 島田悟, 荻荘則幸
<b>所属</b> *8 ポイント	医療法人社団らぼーる新潟 ゆきよしクリニック
<b>本文</b> * 全角 <b>600</b> 字以内 * 600 字を超えた部分は 入力確定できません * <b>英数字</b> は半角 * <b>カタカナ</b> は全角 * <b>記号</b> は全角 * 文字の装飾(下線、太字、 斜体、フォントの変更な ど)は反映されません	大腿骨近位部骨折（以下、 <b>PPF</b> と略す）の歩行予後と、退 院後の在宅におけるリハビリテーションに関する検討を行う ことを目的として、訪問リハビリテーション（以下、訪問リ ハ）を行った <b>PPF</b> 受傷者の受傷前、退院時、訪問リハ終了時・ もしくは現在の、屋内歩行自立度の変化、および、その家族 構成を調査した。調査の可能であった 20 例（男性 3 例、女 性 19 例、平均年齢 82.2 歳±7.7 歳）のうち、7 例（35%） は、退院の時点では受傷前の歩行自立度を獲得できずに自宅 に帰られていたが、その後の一定期間後に、受傷前の歩行自 立度、もしくはそれ以上に至っていた。また、その 7 例すべ てに、日中、歩行の見守り、もしくは介助を行う同居家族が おり、退院時に受傷前の歩行が未獲得であっても、訪問リハ が介入し、同居家族の協力が得られれば、歩行自立度は改善 する可能性があることが示唆された。  また、今回の対象者の訪問リハ導入のきっかけは、その多 くが“介護支援専門員からの紹介”であり、 <b>PPF</b> における退 院後の歩行自立度の改善の可能性を介護支援専門員に訴えか け、潜在的な訪問リハ対象者を掘り起こしてゆくことが必要 である。